【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

学校名	嬉野市立大野原小中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・評価項目の「心の教育」「健康体作り」で課題が残った。特に「心の教育」のいじめについては、よりアンテナを高くし、子どもたちの小さな変化も見逃さないように今後も子どもたちに寄り添いながら指導を継続していく。 ・子どもたちの自己有用感、自己肯定感を高める教育を進め、夢に向かって努力する児童生徒の育成を図る。 ・「望ましい生活習慣の形成」について、児童生徒の実態を把握し、家庭と連携しながらよりよい方向へ改善できるように努める。
2 学校教育目標	かがやく大野原っ子の育成 ～ 新しいことに挑戦 様々な人との協働 社会に貢献 ～
3 本年度の重点目標	1 確かな学力を身に付けさせる。 2 思いやりの心、豊かな心を育てる。 3 元気で健やかな心身を育てる。 4 地域愛に満ちた豊かな人間性や社会性を育てる。

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○授業での課題提示の工夫と話し合い活動の設定及びICT利活用	○「友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりして、話し合う活動は意欲的にできていますか。」に肯定的な回答をする児童生徒の割合85%(36人中32人)以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、「自分の考えを説明する場」、「学び合い活動」、「ICT利活用」を取り入れた授業を実践する。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒85%(36人中32人)以上	・年間計画及び発達段階を考慮した道徳授業の確実な実践を行う。 ・定期的に平和集会や人権集会を実施する。 ・保護者や地域、他校と連携した交流・体験活動を実施する。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●「いじめ予防・防止のための研修・会議、組織的対応ができています」と回答した教職員90%(16人中14人)以上 ○「学校には相談しやすい職員がいる」と回答した児童生徒80%(36人中29人)以上	・いじめ予防(月1回のアンケート等における児童生徒理解含む)や対応についての研修・会議を年間に3回以上実施する。 ・いじめ防止、認知・覚知等について共通理解した上での組織的な対応を行う。 ・SC等との連携を強化し、相談時間の確保、相談しやすい雰囲気づくりに努める。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%(36人中32人)以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%(36人中29人)以上	・行事や体験活動を通して、児童生徒一人ひとりの良い点や可能性を見つけ、評価する(褒める)取組を意識して行う。「自分は他の人のためにがんばることができている」などの自己肯定感を高める。 ・学習や行事、体験活動や異学年交流で、自らの夢や目標に結び付いた振り返り活動を充実させる。
	○「あすなろ会(児童生徒会)」を中心に児童生徒が主体的に取り組む活動の充実	○「様々な学校行事に主体的または積極的に取り組めた」と回答した児童生徒85%(36人中32人)以上	・行事等の企画段階から「あすなろ会」が関わって手立てを取る。 ・行事等の司会及び進行等へ児童・生徒が積極的に関わっていく手立てを取る。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●「早寝早起き朝ご飯」、「食後の歯磨き」について肯定的な回答をした児童生徒90%(36人中33人)以上 ●歯科検診結果を受け、う歯保有者の歯科受診100%(36人中36人)	・発達段階に応じて、生活習慣についての自己評価(チェックカード等)の実施を行い、振り返りの場を設定する。 ・保健だよりの発行による啓発活動を行う。 ・保護者への個別の連絡を徹底する。 ・歯科保健指導、ブラッシング指導等を継続的に実施する。
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○通学途中での、事故・事件0%	・登校班への日常的な指導を徹底し、事故の事例をもとに考えさせる場を設定する。 ・災害被害防止のための組織的対応の充実を図るための研修を実施する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(1箇月について45時間、1年について360時間)を遵守	・定時退勤日を履行するために、日常の業務遂行を計画的に行う。 ・部活動休養日を確実に設定する。 ・部活動や社会体育での外部指導者の発掘を行うなど、持続可能な働き方を目指す。 ・学校閉庁日の設定に伴い、年休取得を推進する。
●特別支援教育の充実	○教師の専門性と特別支援教育意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上した教職員90%(16人中14人)以上	・特別支援教育研修会への積極的参加と講師招聘による校内研修の充実を図る。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○家庭・地域との連携	○「コミュニティ・スクール」の特色を生かした教育活動の推進	○「学校・家庭・地域が三位一体となって児童生徒を育てている」と感じる教職員90%(16人中14人)以上・保護者90%(19人中17人)以上	・大野原高原学園広報活動の拡充と地域住民との協力による受け入れ態勢の継続を図る。 ・地域人材の活用やバイオリン等を使った本校独自の総合的な学習を実践していく。